

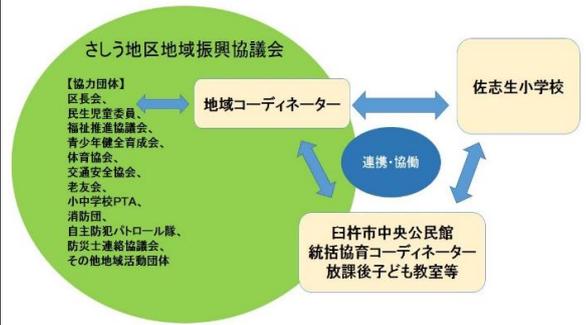
こんな活動です

佐志生大好き！佐志生が一番！！

—ふるさとづくりは子どもたちとともに—

大分県臼杵市		●活動名 さしう地区振興協議会			●関係する学校名 臼杵市立佐志生小学校		
協働活動開始年度	平成27年度	関係学校数	1校	のべ学級数	4学級	のべ児童・生徒数	25人
活動区分	学校支援活動	—			地域人材育成		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 1人		
学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置		ボランティアの数	延べ登録人数 22人	企業・NPO等との連携		無
参考URL	http://syovu.oita-ed.jp/usuki/sasiu/index.htm						
●連絡先	臼杵市教育委員会 社会教育課(臼杵市中央公民館内)			☎ 0972-63-6444			

体制図



●活動の概要・経緯

本校区では、以前から青少年健全育成会の活動として、通学路で子どもたちの登下校を見守る生活指導パトロールやあいさつ運動・校庭の除草作業などに取り組むとともに、地域人材を活用した放課後子供教室などの活動を実施してきた。これらの活動を母体として平成27年度に「さしう地区振興協議会」を設立し、統括協育コーディネーターと地域コーディネーターを中心に、地域の歴史や特色を活かした郷土学習や学校支援活動など多様な活動が展開されるようになっていく。また、今まで学校との関係が薄かった団体も、地域コーディネーターのかかわりにより協力関係ができ、学校と顔の見える関係ができた。さらに平成30年度から佐志生小学校に学校運営協議会が設置されたことにより、現在、学校と地域がより連携・協働して、子どもの教育活動や地域催事などに取り組む体制が構築されている。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- 1 地域資源を活用した郷土学習「三浦按針」を通して学ぶ「さしうの魅力」
1600年当地に漂着したオランダ帆船リーフデ号の乗組員であった三浦按針について学習するとともに、地域の歴史や文化に関するクイズを作成。また卒業制作として、地域の協力により佐志生の良さを盛り込んだ「さしう大好き物語」のDVD制作に取り組んだ。
 - 2 地域資源を生かした教育活動「もみの木山登山道の復活」
近年は登る人もなく荒れ果てていた登山道を振興協議会の有志が切り開き、昔のように登れるよう整備。平成28年、会員の案内で児童・教職員・保護者42名が50年ぶりにもみの木山登山を達成、以来恒例の学校行事となった。
 - 3 伝統行事の継承～藤田獅子祭り出演
200年以上続く藤田地区の獅子祭りは、篠笛を吹く囃子方をつとめる中学生が減少したため、現在は振興協議会との連携により他地区の小学生も加わり、さしう地区をあげての催事として継承する活動を行っている。
 - 4 学校と地域が連携した放課後子供教室
児童全員を対象に、地域住民による国語と算数の補充学習を行っている。学校運営協議会において子供たちの学力について学校と地域が熟議を深めることで、より充実した学習支援が行われるようになっていく。

【実施に当たっての工夫】

- 地区振興協議会事務局を小学校に隣接した場所に置き、日頃から小学校との連携を大事にしている。
- 地域学校協働活動については、大人も子供も楽しめるよう工夫し、協力団体を通じて住民ふるっての参加を働きかけている。
- 他地区の振興協議会との交流を大事にし活動の充実につなげている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

過疎化が進む地域に元気を取り戻す活動が実を結びつつある。その推進力となったのは小学校へ通う子どもたちを真ん中に置いて考えたこと。子どもたちを見守り、時には先生となって地域の歴史や文化をいっしょに学ぶ。これらの活動に参加することは、大人たちにとっては往時を懐かしむ楽しみもあり、子どもたちにとっては地域の大人たちと接するなかで家族だけではない人たちに自分が支えられていると気づくことであった。

●その他

「さしうイキイキ文化祭」では三浦按針や郷土についての学習の成果を発表するとともに、佐志生の魅力を伝えるDVDを上映した。50年ぶりに登頂した「もみの木山登山」は現在も地域とともに作った恒例の学校行事として継続している。



さしうイキイキ文化祭



一丁燵登頂